

# 江波山かげに



誇りあり 歓喜あり のぞみあり 江波小学校（平成19年5月1日号）

新年度が始まり、1月が経過しました。全学級の授業参観・懇談会が終わりましたが、とても多くの保護者の方々にご参加いただきました。保護者同士の、また担任とのコミュニケーションをしっかりとっていただけたものと思います。学級の保護者同士のつながり、学年の保護者同士のつながりを強くしながら1年間を過ごしていただきたいと思います。

今、家庭訪問の期間となっています。子どもたちの状態をしっかりと把握することは、子どもたちの成長を促すためにとても大切なことですので、ご協力をいただきますようお願いいたします。

今年度からどの学年も1年で学級編成変えを行うことにいたしました。保護者の皆様のご理解ご支援のおかげで、どの学年、どの学級もほぼ順調なスタートを切ることができました。子供同士の広くて強いつながりをつくっていけるよう努力していきたいと思えます。

また、今年度からは、2学期制での教育活動を行います。大まかなことからは、これまで説明してきた通りですが、これからは、年間の学習計画、行事計画など、より具体的なことがらをお知らせしてまいります。

今年度、次のような大きな目標を掲げて取り組んでまいります。

## 平成19年度学校教育目標

- <自ら学び 自ら考え 豊かな心を持って、個性豊かに生活を創造する子どもの育成>
- 基礎的な学力や生活習慣を身に付け、自ら考え、正しく判断し、主体的に取り組む子どもを育てる
- 友だちや生命を大切にし、思いやりのある心を持って、心豊かにうるおいのある生活をする子どもを育てる
- 自分の体力や運動能力を自覚し、進んで健康増進に努める子どもを育てる
- 保護者や地域の願いを大切にしながら、開かれた学校づくりに努める
- <めざす子どものすがた>
- 強い子：主体的に行動し、最後までやりぬく子
- 正しい子：自分で考え、正しい判断のできる子
- 明るい子：生命を大切にし、思いやりのある行動がとれる子
- <めざす学校のすがた>
- 明るく楽しい学校
- 生き生きと活動する学校
- 美しく整えられた学校

今年度は、行事予定とそれに関わりのあることがらを中心にお知らせする「学校だより」と子どもたちの様子、子どもたちの思いなどを中心にお知らせする「江波山かげに」との両方を配布いたします。「江波山かげに」<誇りあり><歓喜あり><のぞみあり>は、江波小学校の校歌にある言葉です。子どもたちの心に、<誇り>と<歓喜>と<のぞみ>とが育っていくことを願って掲げました。

6年生は学校のリーダーとして、下学年児童の信頼を得ようと心をたかぶらせています！

**<こんな6年生になりたいです。>** (校内掲示板から)

ぼくは、1年生にやさしい6年生になりたいです。それはなぜかという、1年生だけ早く江波小学校になれてもらいたいからです。

1年生にやさしくたよりにされる6年生になりたいです。委員会ではがんばってみんなによるこんでもらえるようにしたいです。

1年生にやさしくて、もし1年生がこまっていると理由を聞いて、手伝えることがあったら手伝ってあげられる6年生になりたいです。1年生に親しんでもらうためにやさしくしゃべります。

1年生に優しく、つねにたよりがいあって、4月の遠足は1年生といっしょに行き、1年生に「いいお兄さんだね」と言われるようにがんばりたいです。

下の学年の人達にやさしくできる6年生になりたいです。この学校で一番上の6年生として一生懸命がんばりたいです。委員会では、5年生に負けないくらいの考えや意見を出してまじめにがんばりたいです。字もわかりやすくきれいに書くように、一生懸命がんばりたいと思います。

2年生はこんな思いで1年生の入学を待っていました！

**<がっこうのこと おしえて あげるよ>** (1年生廊下の掲示板から)

小学校には、たのしいゆうぐがたくさんあるよ。たとえば、たいやとびは、小さいほうと大きいのがあるよ。ちゃれんじしてね。

小学校は、6年生がえんそくのとき手をつないでくれるよ。それにあそんでくれるよ。まいにちたのしいよ。まいにち小学校にげんきにわらってきてね。まってるよ。ごはんはおもいよ。きゅうしょくしつのでんせいのきゅうしょくはおいしいよ。いっぱいいたべてね。げんきがでるよ。

小学校には、本がいっぱいあるよ。としょしつに本があるよ。こわい本が人気だよ。こわいけどおもしろいよ。



## 春の詩

水底吹笛  
三月幻想詩

大岡 信

ひょうひょうとふえをふこうよ  
くちびるをあおくぬらしてふえをふこうよ  
みなぞこにすわればすなはほろほろくずれ  
ゆきなずむみずにゆれるはきんぎょぐさ  
からみあうみどりをわけてつとはしる  
ひめますのかげー  
ひょうひょうとあれらにふえをきかそうよ  
みあげれば  
みずのおもてにゆれゆれる  
やよいのそらのかなしさ あおさ  
しんしんとみみにはみずもしみいつて  
むかしみたすいしゅうきゅうのつめたいゆめが  
きょうもぼくらをなかつのだが  
うつすらともれてくるひにいのろうよ  
がらすざいくのゆめでもいい あたえてくれと  
うしなつたむすうののぞみのはかなさが  
とげられたわすかののぞみのむなしさが  
あすののぞみもむなしかろうと  
ふえにひそんでうたっているが  
ひめますのまあるいひとみをみつめながら  
ひとときのみどりのゆめをすないうつし  
ひょうひょうとふえをふこうよ  
くちびるをさあおにぬらしふえをふこうよ

